

音楽部門

大正琴の部

大正琴ゆり 頼富百合子

私たち大正琴も文化協会合併以来、音楽部門、大正琴分野として活動を実施してまいりました。

大正琴は全国では五つの流派があります。

さぬき市においては琴伝流、琴城流の二流派で、クラブ数は十八、クラブ員は百八十名です。会員一同それぞれのクラブで頑張っております。

昨年二月には第一回さぬき市大正琴の集いを、志度音楽ホールで開催しました、流派は違っていますが、みんな和気藹々と、お互いに勉強にもなり、楽しい一時をすごすことが出来たと思っております。

本年は二月十九日(土)長尾公民館において第二回さぬき市大正琴のつどいを開催致します。また、六月に実施される、「さぬき市音楽の祭典」にも、九グループが参加の予定です。

さて、皆さま、大正琴だけでなくアンサンブルが可能なことを、ご存知でしょうか?ソプラノの大正琴に合わせ、アルト、テナー、バス、と幅広い音域の中で

生まれる音色とタッチが融合して、豊かな音楽を奏でることが出来ます。

一音、一節の意味を考え、表現出来れば、これこそが演奏技術の向上と思いい、日々努力していきたいと思っております。

とは言っても大正琴は、一人でも楽しく奏でられる楽器です。

皆さま大正琴に参加してみませんか?いつの日にか、皆様方を感動と陶醉させられるよう、これからも練習に励みたいと思っております。

詩吟の部

吟詠に親しむ

志度吟詠会 谷口 勤

さぬき市内には、文化協会に加入の詩吟の会は、岳風会一団と臥風流吟詠会が七団体で、会員数は百六十名です。

吟詠会の活動は、各会とも毎週一回の吟詠練習を行い、吟道の研鑽に努めています。

練習日のほかは、本部における研修会、各種大会、段級審査会、また、県吟剣舞選手権、各種吟詠コンクールに参加して、入賞者も多く、優勝者も数名出ています。

市内においては、東讃吟剣詩舞交歓大会を年三回開催して、吟の向上と親睦を深めています。

この大会の垂れ幕は、「吟剣詩舞道は礼節を尊び、斯道の興隆は社会の浄化に寄与す」です。

二十一世紀は、心の教育、心の潤い、また生きがいを求める事が、大切と言われています。

最後に「吟道は心と体の深呼吸」末永く吟の道を歩けば幸いと存じています。

合唱の部

みろくエコー 多田 勲

合唱部門の文化協会への加入グループは、志度の「コールソランド」「フラワーハーモニー長尾」、大川の「みろくエコー」の三グループです。結成後十年ちかくまたは、それ以上の年数を活動しつづけているグループばかりです。

合唱は声のハーモニーをつくる必要があるため、多くの参加者が求められます。グループは三団体ですが文化協会への加入者数は七十五名です。

活動は、定例の練習と地域の行事や、文化祭での発表です。また、福祉施設への慰問などもしています。

前年度は三月二十日に、合同コンサートを開催しました。

今年度は台風被害により、文化祭等の多くが中止になり、発表の機会が少なかったのですが、三月十九日(土)に三グループが音楽ホールで合同合唱祭をおこないます。また六月二十六日(日)の「さぬき市音楽祭」に参加します。

みなさま多数の、ご来聴をお待ちいたしております。

吹奏楽の部

「演奏活動をふり返って」

さぬき市音楽クラブ 藤井可郭

当音楽クラブは、演歌、カラオケが流行し始めた頃の昭和五十六年五月に、旧寒川町内在住の同好者八名で設立し、すでに二十四年を迎えようとしております。

クラブを設立したものの当時楽器は殆んどありませんでした。会員の中に篤志家があらわれ、当面必要楽器類総額数十万円を提供され、楽団のチーム編成と練習ができる体勢となりました。

幸いなことに、元香川警察音楽隊の初代隊長であった寒川町在住の、松下香先生が指導、指揮をされ、以来週一回の練習を積み重ね、五年後には演奏可能曲は、約六〇〇曲にも及び、指導者がいなくとも自立できる

ようになりました。現在、クラブ員は九名で、今

では平均年齢が五十七歳です。楽器は、アルトサクサク・テナーサクサク・トランペット・ホルネット・フルート・アコーディオン・ベースギター・シンセサイザー

キイボードで、もっぱら演歌を中心とした演奏活動により、旧大川郡内の老人ホームには、数多く訪問演奏したのをはじめ、町の文化祭・敬老会・各種団体のイベントなど、多数な催しにおいて演奏発表をおこない、好評を得てきました。

過去の出演・発表で印象深いものは、昭和六十三年四月、瀬戸大橋が落成開通時、瀬戸大橋博覧会場内のイベントドームで、県下五市三十八町が、それぞれオリジナルな郷土芸能などを発表する、「市町の日」、同年の五月二十六日「寒川町」の日に、我がクラブの演奏にあわせ、歌と踊りを一体とした出演は、大観衆から大変な声援をうけたこと。

幸い、さぬき市誕生後、さぬき市文化協会が設立され、部門加盟により一層、励んでまいりたい所存です。

